

大事故から26年



チェルノブイリ原発の北3kmにある南郷の町・ブリヤチの旧文化会館の楽屋裏



写真・文 徳丸威一郎

巨 大なる負の遺産、チェルノブイリ原発(ウクライナ)。1986年4月26日午前1時24分に起きた4号機の爆発事故の後、残る3基の原子炉も2000年までに全停止し、現在は約3100人の作業員が廃炉作業に従事する。通常は非公開の同原発2号機の制御室に入った。白帽、白衣姿の作業員が24時間態勢で核燃料を管理している。同制御室は石棺(4号機)とは数百メートルの位置にあり、放射線量は毎時1.23マイクロベクレルで平常時の20倍超。いまも「非常事態」が続いている。

◎特集記事も併せてお読みください。

「メルトダウン」という言葉を世に知らしめ、放射能の脅威に世界が震動したチェルノブイリ原発事故から四半世紀余り。9月下旬、記者は史上最悪の「負の遺産」を訪ねた。そこには25年後のフクシマ、そして日本の姿が浮かび上がった。



白衣の作業員が行き交う原発建屋内部

今も3100人



2号機の制御室

最終警告

ウクライナの首都キエフは自由がモスクワの自由では出ておらず、エロフロート機で約16時間かかる。チェルノブイリ原発に入るにはベラルーシ国境近くの北部までバスで移動し、原発から30〜50kmの居住禁止区域(通称「ゾーン」)に入らなければならない。2ヵ所に検問所があり、警察、軍当局による厳重警備が敷かれ、ウクライナ政府の許可がなければ通行できない。任侠中の女性や18歳未満は立ち入り禁止だ。原発に向かうバスの窓から見えるのは、点在する原発作員の宿舎や廃屋と

▼**本誌記者は見た「2号機制御室」の衝撃**
▼**記念撮影スポットで線量最大13マイシット**
▼**「彼らはチェルノブイリ人」続く被曝差別**
▼**フクシマ工程表の「非現実美度」**

った村人たちの住居。放射能で枯れた松など。汚染された木造家屋解体されて地中に埋められ、こんもりとした小丘になっただけ。ゾーン内にはオオカミやイノシシなど野生動物が増え、人を怖がらなくなったという。軍から派遣されたバスに同乗した女性ガイド(2)が語った。「30kmにある約2万の村から約9万が強制避難し、原発作業員が多く住んだ町リヤチナからは4万9343人が避難しました。移住先はじめなかった高齢者が約1200人。故郷の村に帰れば、サマシヨール(おままだまな人た)と呼ばれ、今でもゾーン内には約1000人が暮らしています」

記者はNPO「食品と暮らしの安全基金」(八舌順代表、さいたま市)の調査団に同行し、原発周辺や近隣の村、避難した周辺住民を取材した。チェルノブイリの深刻な事態を引き起こした福島第一原発、事故で放出された放射能による被害は、ウクライナの現実を直視し、日本が学ぶべき教訓を汲取る狙いである。

チェルノブイリ原発1号機で事故が起きたのは、1986年4月26日午前1時24分。原子炉内の核分裂反応を制御できなかった原子炉が暴走、メルトダウン(炉心溶融)を起こして爆発した。原子炉は冷却器のない自然減速冷却システム(RBMK)で、核分裂を効率化する減速材として鉛が使用された。事故が起きたのは、1986年4月26日午前1時24分。原子炉内の核分裂反応を制御できなかった原子炉が暴走、メルトダウン(炉心溶融)を起こして爆発した。原子炉は冷却器のない自然減速冷却システム(RBMK)で、核分裂を効率化する減速材として鉛が使用された。

廃炉作業に



10%圏の検問所



新シェルターの完成予想図

1、2号機のタービン建屋(左)処理が最後先れ、3基の廃炉作業は後回しにされています。一米ワシントン、東京に拠点を持つ原発コンサルタント会社「IAコンサルタント」の佐藤隆氏

記者を含む調査団は白衣、白帽、靴カバーを着用して原発建屋入り。薄暗く、長い通路を数百メートル進むと左手に2号機の制御室入り口があった。真つすぐの通路を進むと3号機制御室、さらに通過した突き当たりが石棺で覆われた4号機である。厳重に封

鎖された制御室内に入るのと、20世紀にタイムスリップしたかのような年代物の操作パネルが全面に並んでいた。2号機制御室トップのシフト長、アレクサンドル・スベリツキ氏(56)が口を開いた。「(56)が口を開いた。「我々は今、原子炉を制御する」という本来の仕事はしていません。ほとんどのスイッチがオフの状態です。原子炉内部にある核燃料を冷却するため、一部を制御冷却アールの温度、水位は管理も行っていきます」

鎖された制御室内に入るのと、20世紀にタイムスリップしたかのような年代物の操作パネルが全面に並んでいた。2号機制御室トップのシフト長、アレクサンドル・スベリツキ氏(56)が口を開いた。「(56)が口を開いた。「我々は今、原子炉を制御する」という本来の仕事はしていません。ほとんどのスイッチがオフの状態です。原子炉内部にある核燃料を冷却するため、一部を制御冷却アールの温度、水位は管理も行っていきます」

潜入ルポ

フクシマへの伝言

チェルノブイリ

在はタービン解体などの廃炉作業が続く。チェルノブイリ原発は77年の1号機稼働後、3基が増設された。4基とも100%稼働。事故が起きた4号機は、91年に2号機、96年に1号機、00年には3号機が停止。現在の原発職員は、現在44基で総約3100人の職員が廃炉作業などに従事する。ウクライナ政府は1、3号機を残った核燃料の回収処理を行うべく、最近になってようやく米国の事業と契

石棺の核燃料回収は10年計画で

衝撃だったのは、調査団が制御室に持ち込んだ線量計が毎時1.23マイシットを示したことだ。これは平常時の20倍超の数値であり、福島原発事故後の福島県川俣町、南相馬市、川内川の一部地域の空間線量に匹敵する。事故当時が制御室で働いていたシフト長のスポ

「新シエルターは古い石棺ごと4号機を覆う設計で、15年までに設置します。そ

黒鉛が使われていたため火災が発生、大量の放射能が大気中に放出された。案内係の原発職員によると、「ヘリコプターで上から計5000kgの砂、粘土などが4号機に投下された。4号機を覆う「石棺」が206日間の突貫工事で86年11月に完成したが、その内部には約200kgの放射能物質が残り、事故で死亡した運転職員1人の「骸骨」も取り残されている」

先は、調査団が最初に向かった2号機のコントロール室(制御室)だ。ウクライナ政府は今月1月から30日間を観光客に開放しているが、原発内部は無論禁止のため、調査団は独自ルートで制御室へ立ち入り許可を得た。前出・原発職員に聞くところ、私が知る限り、2号機制御室に入った外国人はこの10年間で2人もいない」と答えた。2号機は91年に起きたタービン室火災で原子炉が停止。現

撮影した4号機の下



シント島のスボーリッシュユ氏(左)はかつて同僚だった

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

「我々は死か刑務所しか選べなかつた」

事故後26年目の真実 元原発技術幹部 直撃120分

86年4月6日に起きたチェルノブイリ原発4号機事故の真面目で、同2号機がシビアアクシデント(過熱事故)に進展しかねない重大局面を迎えていた。

その証言するのは、当時2号機制御で技術幹部を務めたユリイ・アンドレーエフ氏だ。同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・



ゴーストタウン化した原発作業員の町プリピャチ

この時、アンドレーエフ氏は「死か、それとも刑務所か」との二つの選択肢しか考えられなかったという。電源が失われた状態でも現場に踏みどまるとして事故処理を続行し、2号機の暴走による爆発、炎上にも巻き込まれて死ぬか、あるいは「敵前逃亡」による刑務所行きか。旧ソ連時代、敵前逃亡はすなわち銃殺刑を意味した。アンドレーエフ氏が出した答えは刑務所ではなかった。「死」だった。「もう一度爆発が起きれば、原爆から1.8倍しか離れていないプリピャチの町がどうなるか。プリピャチの自宅に残してきた妻と2人の娘のことを思うと、すごく怖くなりました。持ち帰るのを断られた。私に代わる専門家は誰もいなかった。私が2号機の停止作業をするしかなかったのだ。」

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・



コプリン村に移住したミハイルさん(左)と妻

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・

その後、同氏は「リアクター」事故処理死因と、今も専称で呼ばれる関係で構成されたチェルノブイリ連盟(金平市代表である、前出の現シフト長、アレクサンドル・